

水を変えるもの

横浜市立篠原中学校

三年 白鳥 修一朗

今まで色々な水を見てきましたが、それぞれの水には違いがあり、個性がありました。きれいな水、汚い水、魚が泳いでいるか、いないか等様々でした。では、なぜ同じ地球上の水なのに違いがあるのでしょうか。この疑問を抱いたのはある体験がきっかけでした。

中学二年生の5月頃家族と四国旅行に行きました。この旅行での一番の目的は愛媛県でのサイクリングでした。四国では本州と四国を結ぶ橋でサイクリングを行うことができます。自転車を借り、ワクワクいっぱい自転車 forcefully 漕ぎ始めました。橋からは雄大な瀬戸内海と島々が広がっていました。波はなく静かで、深い碧色の海を見て、

「夢みたい」

と気が付いたら口に出してしまいました。また、瀬戸内海は底が見えるくらい透き通っていました。旅行から帰っても、きれいな海のこと忘れられず家族とはサイクリングが楽しかったという話題がしばらく続きました。後日、いつも通り習い事に行きました。行く道の途中には、川が流れています。その川は緑色で濁っており、あまりきれいではありません。その時、旅行で見た水を思い出して疑問に思いました。同じ地球上の水なのに、なぜきれいな水や汚い水があるのか、汚い水には原因があるのかと。

川の水が汚くなる原因には、工場からの産業排水や風呂・トイレなどの日常生活から出る生活排水があります。かつては産業排水が主な原因でしたが、工場に対する規制がされて現在では生活排水が大きな原因となっています。つまり、私達が水を汚す原因になっているのです。では、水を汚さないようにするにはどうしたら良いのでしょうか。それは、とても身近なことを意識するだけで変わります。例えば、食器についた油汚れなどはキッチンペーパーで拭き取ってから洗うようにしたり、調理くずを土地に還元して肥料にしたり、米のとぎ汁を食

器洗いに使うなどがあります。また、味噌汁や牛乳は、まず食べ切ること、でも捨てざるをえない場合はそのまま流さずに、吸収材や新聞紙に吸わせることも水を汚さないことに繋がります。牛乳コップ一杯分を海や川に流した場合、元の水質に戻すにはなんと浴槽一六杯分の水が必要です。個人が意識を変えることにより、街の川の色も変わるかもしれないのです。

皆さんはきれいな水が流れる街と、汚い水が流れる街のどちらに住みたいですか。もし、きれいな水が流れる街に住みたければ私達が変わらなくてはなりません。水は水自身で変わることはできません。水を変えるのは私達なのです。